

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立うれしの特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度の学校評価においては、最終評価及び学校関係者評価ともに全ての項目で「A」を達成し、取り組み内容をほぼ実施することができた。一方、生徒一人一人のニーズの違いからつけたい力が多様化していることにより、指導・支援のアップデートが欠かせない。また、いじめの早期発見・早期対応のため組織的対応を行っているが、児童生徒の実態に合わせてさらに改善をしていきたい。
2 学校教育目標	キャリア教育を推進することにより、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、心豊かにたくましく、積極的かつ主体的に社会に参加し、貢献する人間を育成する。
3 本年度の重点目標	(1) 特別支援教育の専門性の向上と指導力の育成 (2) 学習指導要領に基づいた教育の実践 (3) 希望進路100%の実現 (4) 地域と歩み開かれた学校づくり (5) 命と人権を大切に作る安心・安全な学校づくり (6) 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による学びの育成 ○新学習指導要領を踏まえた教育の実践	○教職員の特別支援教育の専門性向上に努め、「学ぶ力が育ってきた」と回答する保護者70%以上。 ○「3観点を意識した指導、評価に取り組んだ」と答えた教職員70%以上。	・個別の指導計画に基づいて指導内容及び方法を適切に設定し、学習評価をとおして学びの育成を図る。 ・各教科において3観点を意識した指導、評価を行う。そのための研修を行う。	A	・効果的な指導を目指し、個別の指導計画に基づいた授業を実施し、「一人一人の実態に応じた指導をしている」と答えた教職員98%。 ・校内研修で、観点別評価について研修の場を設けた。「3観点を意識した指導、評価に取り組んだ」と答えた教職員95%以上だった。	A	・個別の指導計画に基づいた学びの育成を図り、「一人一人の実態に応じた指導をしている」と答えた教職員99%だった。 ・「教職員が特別支援教育の専門性向上に努め、学ぶ力が育ってきた」と回答した保護者が94%だった。 ・定期的に研修日を設け、職員間で情報交換をしながら研修を行った。「3観点を意識した指導、評価に取り組んだ」と答えた教職員95%以上だった。	A	・個別の指導計画に基づいた支援がなされていることが理解できた。また、先生方が個別に譲じた指導にしっかりと取り組んでいることを、保護者が実感されている。今後もこのような支援を継続して欲しい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○図書を活用した教育実践。 ○社会におけるルールやマナーに関する指導の充実。	・授業時間とはもとより休み時間等を含めた学校生活全体を通しての活動において、社会性や道徳心の向上に資する支援・指導・働きかけを行う。	B	・児童生徒の実態に合わせて、社会におけるルールやマナーに関する指導・支援・働きかけを行い、社会性や豊かな心を身に付ける教育活動に取り組むようにしている。	A	・アンケートで「学校の図書室の本を読んだことがある」と回答した児童生徒は96%だった。 また、「学校のルールやマナーを守れている」と回答した児童生徒は96%だった。	A	・学校の図書室を全学部で活用されていることは、とてもいいことだと思う。読書の良さを伝えるために、本と触れ合う機会を読み聞かせも1つの手立てとして入れられてもよいと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上。	・いじめに関するアンケート調査を年5回実施する。 ・学校基本方針の共通理解と周知徹底、いじめへの対応力向上を図る研修を年に2回以上行う。	A	・いじめに関するアンケートを2回実施。アンケートより8件のいじめを認知して、対応できた。 ・いじめに対して、組織的に対応できていると回答した職員が90%以上だった。	A	・いじめに関するアンケートをeメッセージを活用して実施。中間評価後は9件のいじめの認知を行い、対応できた。 ・いじめに対して、組織的に対応できていると回答した職員が100%となった。	A	・昨年に比べていじめの認知件数が増加したことについては、丁寧な見守りができていることが理解できた。児童生徒の特性を要因とするトラブルが多いことから、年間を通して子供たちの様子を組織的に見守って欲しい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の充実。	●「教職員は、子どものよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると思う」と回答した保護者70%以上。 ●「児童生徒が将来の夢や目標を持つようになり、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した教職員80%以上。	・児童生徒の望ましい行動やよいところを褒めて、認める。そして、そのことを連絡帳などを通して保護者へ伝える。 ・児童生徒が自分で考えたり体験したりして、将来の生活を具体的にイメージする学習の充実。 ・児童生徒が自己の将来とのつながりに見通しをもったり、学習を振り返ったりするなど、授業改善を進める。	・児童生徒の実態を肯定的に捉え、望ましい行動やよいところを褒めて、認め、連絡帳などを通して保護者に伝えるようにしている。 ・振り返りの時間を設け、児童生徒のよいところを褒めたり、仲間同士で頑張ったことを認め合う時間を設けている。 ・「児童生徒が将来の夢や目標を持つように、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した職員98%以上だった。	A	・アンケートで「教職員は子どものよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると思う」と回答した保護者は96%だった。また、「児童生徒が将来の夢や目標を持つように、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した職員は99%だった。 ・「児童生徒が将来の夢や目標をもつようになり、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した職員98%以上だった。	A	・子供のよい所をしっかりと伝えることで、保護者も安心して学校で育ててもらっていることがわかった。保護者の連携のためには、悩むこともあると思うが、組織的に「報告・連絡・相談」を行い、継続した取り組みとして欲しい。	
	◎佐賀への思いを醸成する教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上。 ◎地域の歴史や産業等に触れる校外学習や講演会等、各コース・課程年間1回以上。	・「佐賀語リ」等を活用した授業に取り組む。 ・地域でのフィールドワークや博物館等の見学など郷土の人材を活用した体験授業・講演会を実施する。	・佐賀の偉人、塩田津、志田慎などの学習で5/7のコース・課程が「佐賀語リ」を活用した。 ・「有明海の学習ではラムサール条約推進室に、大隈重信記念館見学では学芸員の方々に依頼して体験授業や講話を実施した。	A	・アンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒は80%以上だった。 ・「佐賀語リ」を活用した授業を各コース課程1回以上実施。佐賀城本丸歴史館やハルーンミュージアムの見学を実施した。	A	・校外での活動や体験活動の中で地域資源を活用して塩田のよさだけでなく、佐賀のよさを再発見していることが理解できた。	
	○災害に強い安全・安心な学校づくり	○防災に関する学校の取り組みについて「安心している」「やや安心している」と回答した保護者・教職員80%以上。	・大雨・火災・地震など、様々な想定による有効性のある避難訓練を実施する。 ・児童生徒が安全・安心に過ごせるように、校内の安全管理を徹底する。	・各種避難訓練や安全管理など、計画通りに実行し、振り返りまで行うことができる。 ・中間アンケートでは、防災に関する学校の取り組みに対して、「できている」以上の回答をした割合が100%だった。	A	・防災に関する学校の取り組みに対して、「できている」以上の回答をした割合が、職員98%、保護者91%だった。 ・大雨になったり、地震が起こったりした時には、対応の話し合いを迅速に行なった。	A	・この地区は、塩田川や瀬の満ち引きによって水害に見舞われることが多くあった。日常からの備えが必要であるため、学校全体での訓練の実施や危機管理マニュアルを共有し安心安全な学校を目指してもらいたい。サービスを利用して下校する生徒も多いことから、災害が発生した場合には、情報提供を放課後デイ事業所にもスムーズに伝達して欲しい。	
●「望ましい生活習慣の形成」	○「毎日歯磨きをしている」と回答した児童生徒70%以上。 ○寄宿舎において、就寝時間・起床時間が一定している舎生の割合を90%以上にする。 ○週3日以上運動習慣がある生徒の割合80%以上。	・学校歯科医、歯科衛生士によるブラッシング指導や「ほけんだより」、掲示物を通して歯磨きの大切さを伝える。 ・寄宿舎日課表の活用と視覚的なスケジュールを提示する。 ・個人の好きな活動を把握し、体を動かす機会へとつなげる。	・歯科検診後に各学部の虫歯の状況の掲示をした。また、歯磨きの仕方について「ほけんだより」に掲載した。 ・寄宿舎生それぞれに応じた、スケジュール表を作成し、実行している。 ・部慶会や普段の会話から好きな活動を把握し、職員も一緒に体を動かしている。	B	・学校歯科医・歯科衛生士によるブラッシング指導を実施し、歯磨きの大切さを伝えた。 ・歯磨き状況調査で「毎日歯磨きしている」と回答した児童生徒は82%(昨年70%)であった。 ・寄宿舎生の90%以上は、個別にあったスケジュールに沿って生活できている。就寝・起床時間が一定だった。また、余暇の時間に80%以上の寄宿舎生に運動習慣があった。	A	・支援事業を使って塩田や鹿島地区の歯科医に協力していただいた毎日の歯磨きをすることが昨年よりも身についてきたことが理解できた。 ・日々の学校生活だけでなく、寄宿舎での生活も指導大変だと思う。自己理解を深め、生活を向上させるような支援をこれからもお願いしたい。		
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○積極的に相談事業を推進し、巡回相談及び来校相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部・舎と連携し、地域の事例に役立てるために、様々なチーム支援の事例を6事例以上とめる。 ○分掌部と連携し、地域に役立つ情報提供を行う。(年4回以上)	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。地域の学校等のコーディネーターやエリアリーダーとのネットワークを作り、地域の特別支援教育の充実を図る。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報告」以上とめる。 ・学校ホームページに地域の学校等に役立つ情報を紹介する。	A	・地域のニーズに応じ、巡回相談を4月下旬より8月末までに48件、研修会での講話5件を行い、依頼に対して実施率は100%である。 ・5月に特別支援教育コーディネーター地区別連絡協議会を実施し、8人が参加した。前年度の巡回相談でニーズの多かった「通常学級の支援」についてテーマを設定し、取り組みなど情報共有ができた。	A	・巡回相談の実施や地域連携研修会等で地域のコーディネーターに年間を通して「通常学級の支援」について研修を行ったことで各校内での支援力が向上して、12月末時点、昨年度同時期の巡回相談件数が22%減少した。 ・校内での連携事例を6事例とめた。 ・ホームページやメールを活用して情報発信を継続して行い、ホームページに記載している教材や研修などを活用していただいた。	A	・小・中学校の通常学級での指導で悩まれている先生も多く、特に巡回相談の先生方が行っていただく支援や指導に感謝している。ホームページに支援のヒントをホームページに掲載されていることで、同じ悩みを持つ先生方の助けになっていることが理解できた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○業務の効率化を図るための校務用PC及び学習用PCの活用	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の削減 ○「毎日SEI-Netの掲示板やメッセージを確認する」と回答する教職員90%以上。	・定時退勤日の設定を行うとともに、行事の精選や規模の縮小を行い、時間外在校時間を減らす。 ・教職員への周知や連絡は、原則、事務システムの掲示板やメッセージを使用することとし、朝礼や教職員会議での口頭での伝達を減らす。	B	・6月から定時退勤日を設定し、退勤時間の呼びかけを行い、メリハリのある勤務を目指した。月を追うごとに、4月の時間外在校時間よりも少なくなっている。	A	・定時退勤日を金曜日に実施したり、学校行事のスリム化したりすることなどにより、在外時間は、昨年同時期(4月から11月)の平均に比べて1時間20分の減少した。	A	・先生方が少しでも早く退勤できることが、日々の業務改善や仕事のモチベーションアップにつながると思う。ICT活用を図りながら、今後も取り組んで欲しい。
○キャリア教育の充実	○希望進路達成率100%の実現 ○進路開拓の取組の充実	○「児童生徒、保護者の進路ニーズに応じた情報提供や就業・施設体験の設定ができており、おおむねできている」と回答する教職員90%以上。 ○「自分らしい生き方や進路について、学校で学んだり先生に相談したりしている」と回答する児童生徒80%以上。	・地域の企業や施設、関係機関と連携した情報提供や就業・施設体験の設定ができており、おおむねできていると回答する教職員90%以上。 ・生徒の特性や進路ニーズに合った就業・施設体験の実施と進路相談の充実(事前・事後学習、卒業後の社会生活)。「つながり」「積み上げ」を意識した進路学習を行う。	A	・福祉事業所紹介リーフレットの作成・配布(430部)、福祉事業所合同ガイダンス(参加約240名)等を開催し、福祉サービス等の情報発信を図る。新規企業開拓(新転任教職員等企業体験研修含む)に全職員で取り組む(新規20社程度)。職員アンケートではとてもと思う「そう思う」の回答90%があり、職員の積極的な研修参加や開拓等により進路支援の専門性向上が見られる。	A	・就業・施設体験の進路学習では、自分の課題を外部講師や卒業生に相談し助言を実習に生かした。うれ特就労フォーラム(120名参加)にて、障害者雇用や障害理解の啓発を図る。中高合同作業学習では近い将来を見通した働く学びに取り組んだ。高等部3年生は、自らの希望進路先へ向かっていく。保護者や事業所等との連携・協働が充実した結果である。児童生徒アンケート「自分らしい生き方や進路について、学校で学んだり先生に相談したりしている」の回答80.9%(回答率93%)があり、キャリア教育を意欲した教育活動に努めている。	A	・職員も児童生徒保護者の進路ニーズに応じた情報提供や就業施設体験ができていることが理解できた。一人でも多くの生徒が自立し、安心した生活を送ることができるよう先生方が努力されていることに感謝している。 ・自分の希望した進路に決まった生徒・保護者より喜びの声を聞いた。希望の進路に一人でも多くの生徒がすすめるよう取り組みの充実を期待している。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <p>・当初、掲げていた目標は、全て「A」評価となり達成することができた。特に重点取り組みとしていた進路に関する「希望進路達成率100%」や「進路開拓の充実」は、進路指導部に限る取り組みではなく全職員が一体となり協働した結果、実現できたものである。この進路指導の取り組みと本校で12年間を通して児童生徒のキャリア教育を取り組んできたことがキャリア教育優良校表彰という形で認められた。 ・業務の効率化を図るための校務用PC及び学習用PCの活用は、情報伝達の手段として基本的なところであるが毎日のSEI-Netの掲示板やメッセージの確認が欠かせない。時間外の在勤時間にも大きくかわることが考えられることから毎日見ている残り8%の人への指導や支援を徹底したい。</p>
----------------	---